

## グローバル・カフェ「ブルネイ・ダルサラーム国イベント」を開催しました

2023年7月6日(木)、グローバル・カフェでは「ブルネイ・ダルサラーム国イベント」を開催しました。本学インターナショナルオフィス・留学生センターの「さぬきプログラム※」で日本語や日本文化について学んでいるブルネイ・ダルサラーム大学(以下、UBD)在籍中のMiaさん、Faiさん、Ningさん、Gohさんよりブルネイ・ダルサラーム国及びUBDの紹介をしていただきました。日本人学生4名、留学生12人、教職員4名の計24名が参加しました。

UBDは1985年にブルネイ初の大学として設立され、同国に4つある大学の中で最大規模の大学とされています。本学とUBDは2009年に大学間協定を結び、医学部を中心に学生交流が積極的に行われています。

Ningさんはブルネイの有名な観光地として、ブルネイの首都、バンドル・スリ・ブガワンにあるモスク「Sultan Omar Ali Saifuddien Mosque (SOAS)」と「Kampung Ayer」を挙げました。SOASの名前は、ブルネイの独立を推進し、国の発展に大きく貢献したブルネイ第28代スルタン(国王)であるOmar Ali Saifuddien 3世に由来しているそうです。モスクには大規模な礼拝ホールや学校、図書館などの施設を備えており、多くのイスラム教徒が礼拝を行うために訪れているとのこと。同じく首都に位置する「Kampung Ayer」は、世界最大級の水上市集落の一つで、ブルネイ川の上に浮かぶ栈橋に建てられた家々には一万人以上の住民が暮らしています。この水上市集落には、学校、モスク、店舗、消防署などの施設があり、人々の日常生活を垣間見ることができるため、観光名所として人気があるそうです。



Miaさんは、首都では地元民や観光客を楽しませるために「BandarKu Ceria」というイベントが開催されており、ストリートパフォーマンス、ワークショップ、フードフェスティバルなど様々なアクティビティが楽しめることを紹介しました。

「BandarKu Ceria」は、マレー語で「私の街は楽しい」という意味で、その名の通り、楽しい活動やイベントで街が大変盛り上がるそうです。

主な開催日は日曜日で、主要な通りや公園は交通規制され、人々は自転車や徒歩、ローラースケートなどで街を散策することができるので Mia さんも家族とともにこのイベントによく参加すると話してくれました。

Goh さんからはブルネイの伝統的な料理として「Ambuyat」「Pulut Panggang」等の紹介がありました。「Ambuyat」は、サゴヤシの幹からとれるでんぷんを主成分として作られる、粘り気のあるゼリーのような固形状の食べ物です。魚、肉、野菜と一緒に提供され、「Tempoyak」と呼ばれるドリアンの果肉を発酵させて作られるソースと一緒に食べるのが最も人気のある食べ方であるそ



うです。「Pulut Panggang」の、Pulut は炊いたもち米、Panggang は焼くことを意味しています。炊いたもち米を香辛料で味付けし、バナナの葉に包んで焼いたものであるようで、中に鶏肉や他の具材を入れるようにリクエストもできるとのことです。地元の屋台や市場で手軽に購入することができるので、ぜひ食べて欲しいと勧めてくれました。



UBD でダンスクラブに所属している Fai さんからは、ブルネイの伝統的なダンスで使用する衣装や楽器について、UBD で実施されたダンス発表会の動画を用いて紹介していただきました。ブルネイには伝統的なバレエがあり、ハンドメイドの衣装を身に着けたダンサーが

手のジェスチャーを交えながら優雅に演技する舞踏で、宮廷での公演や特別なイベントで披露されることがあるそうです。

質疑応答の時間では、参加者から「ハラルフードは簡単に手に入る？」と質問がありました。Mia さんは「ブルネイの国教がイスラム教であることから、街のレストランはほぼ全てハラルフードを提供している。ハラルフードを提供していないレストランは "Not Haral" という看板を出す決まりになっている。」と答えました。また「ブルネイの交通手段はどのようなものがある？」の問いには「バスも電車もほとんどないので、車がメイン。自転車はスポーツの時のみ使用され、移動手段にはなっていない。」と解答されました。

イベントの最後には「Kahoot!」を使用して、ブルネイに関するクイズを行いました。参加者はスマートフォンを利用して、クイズに回答し、モニターに映し出される結果に会場は大いに盛り上がりました。



次回イベント：7月13日（木）ドイツイベント